

けいじばん

○次回活動のご案内; 12月4日(土)5日(日)9時45分森林館駐車場集合、主な作業は景観管理林・巨木林の除間伐、枝打ち、玉切り、および通路までの搬出、ミーティング(国民宿舎)。携行品;ノコギリ、ナタ、ヘルメットあればチェーンソー、安全手帳、弁当、水筒、お椀。5日当日参加の方は事前に上記アドレスに連絡の上木工館駐車場8時45分集合。

○忘年会のご案内; 12月4日(土)18時から国民宿舎「清和」。会費約1万円、宿泊なし5千円。出欠連絡未済の方は上記アドレスにご連絡下さい。出欠保留の方、連絡後の予定変更ある方は11月29日(月曜日)17時までに連絡下さい。

○1月定例活動日の変更; 他のイベント開催日と重なるため1月23日(日)の活動日を1月30日(日)に変更します。

かつどうのきろく

10月24日(日)曇 参加会員16名、小平顧問、他1

○除間伐木選木; 巨木林および景観管理林の一部区域について、保存木の生育を妨げる樹木を選定・マーキングし、12月活動日の伐採木を選木。

○マダケ林整備; マダケ林の樹木除伐、枝・倒木等整理。

○植菌きのこ調査; きのこ班は昨春植菌したきのこの生育調査。

シイタケ: 750個[㊤]、うち1個は巨大化、ヌメリシイタケ: 190個[㊤]。
昼食のキノコ汁はシイタケたっぷりにウラボシホテイシメジ少々。

○きのこ狩り; あちこちにサクラシメジのコロニー(次頁に写真)、作業終了後全員できのこ狩り、広場に集まったきのこの山を囲み調理法などのきのこ講座、可食はサクラシメジ、ウラボシホテイシメジのほかにコウタケ、帰りはお土産いっぱい。



梢見上げて除採木選び



選木のハチマキ100本?

次回はタツプリの仕事



きのこの山を前に

今回も沢山のきのこに恵まれ楽しい活動でした。参加会員の皆様お疲れ様でした。



マダケ林整備

安全作業について 反省点が多くあります。次のことを徹底し遵守しましょう。

1. 伐採作業にはヘルメット(注1)を着用する。(今回は事務局の連絡不備がありました)
2. 伐採時は合図を徹底し伐採木高さの1.5倍圏外に離れる。安全責任者は笛による合図を徹底する。
3. 作業開始前の安全確認、作業安全責任者と班編成、作業前後の点呼確認の徹底。
4. チェーンソー作業者の安全作業を徹底する。
5. 既配布の安全手帳(注2)をよく読んで安全作業につとめる。

(注1)ヘルメット; 希望者には事務局で購入し次回活動日に持参しますので上記アドレスに連絡下さい。約1,600円。

(注2)安全手帳; 活動参加会員に配布の国土緑化推進機構発行のもの。未配布会員には活動参加のとき配布。

「千年の森」

寄稿 山木和子会員

目覚めると外は曇り…ウー寒そう、と布団を被りなおし、ウン？そうだ、今日は“豊英島”へ行くんだ！ 例により慌しく夫を巻き込んで準備をし、一人マンションを後にする。西千葉の待ち合わせ場所へいくと、もう顔なじみの五十嵐さん、森池さんがいる。今日同乗させてもらう村野車は初体験だ。車中はいろんな話に花が咲く。村野さんと五十嵐さんはお互い誘い誘われ、これまで豊英島皆勤だとか。昨日のすごい地震の話から森池さんの阪神淡路大地震の体験談を聞き、被災者のことを思えばこんなに気楽にしているのか…と思いつつも、話題は時空を越えてとりとめない。

豊英島へ来るのは数ヶ月ぶりだ。ダムは満々と水をたたえ、初めて放水しているのを見た。コンクリの斜面を滑り落ちる水はさながら竜の鱗のように美しい。夏は水枯れで豊英湖の中洲が、それ、あそこに見えていたんだ、と五十嵐さんが感嘆することしきり。広場へいくとテントが張られ、テーブルに丸太の椅子、荷物置きに、カワイイ看板まであり、すっかり“俺たちの場所”に様変わりしていた。初めてここへ来たときは、生い茂る木々と竹でどこをみても同じに見え、方向を見失いそうで怖かったが、今は間伐したお陰で明るくなり木道までついて、コロボックル(アイヌ語、フキの葉の下に住む人の意)の林になった。

午前の作業は巨木林と景観管理林で間伐木を選ぶ作業をした。山桜など残す木の生長を妨げている木を選ぶのだが、これもまた奥が深い。10年後の姿を思い描くんだ、南北方向の日あたり具合も考慮し常緑樹を切る、でもサクラやエンコウカエデばかりの落葉ばかりになっていけない…う～ん、難しい。熱心に目の作業に没頭すると切るほうばかりに傾く。

午後は真竹の林の間伐。雑多に生えた木を切ると竹林の凜とした姿がはっきりしてきた。間伐は10年先を想像するというが、10年先といえば自分たちが来れるかどうかのほうが危うい。でも今日は朗報があった。可恵ちゃんが結婚し、数年後には後継者を抱っこしてくるかも知れないのだ。綿々と千年続く繋がりやの端緒が開かれたかも…？「千年の森」の変遷と可恵ちゃんの変身に注目したいものだ。

「千年の森・10月24日の活動に参加して」

寄稿 森池正典会員

今年2月に入会してもう8ヶ月がたちました。今回で5回ほど活動に参加しました。いつも感じていることですが、会員の皆さんが活動に本当に真剣に取り組んでいる姿に感動しています。私自身、林業の経験は全くなく心配でしたが皆さんの丁寧なご指導のおかげで、少しずつ体で覚えていっています。チェーンソーの使い方とかきのこの菌の打ち方とか、この会に入って初めて体験するものが毎回あります。

今回24日の活動の体験はソフトで楽しいものでした。時節からきのこ採りを楽しみました。これも活動のうちですよ。ウラベニホテイシメジ、サクラシメジ、コウタケ等食用になるものが参加者にほどよく分けられるほど取れました。サクラシメジの薄いピンク色と輪状になって生えている様子は感動ものでした。ウラベニホテイシメジと間違いやすいクサウラベニタケ(こちらは毒あり)の区別の仕方もおそわりました。

前者ウラベニホテイシメジの茎は詰まっている(茎が硬い)が後者クサウラベニタケは中空(茎が軟らかい)になっている。時折りしもスギヒラタケの中毒事故が起こっている最中だったので真剣に聞き入っていました。きのこ採りは昔小学生の頃友達と山に採りに行って以来のことで、なんだかワクワク気分になっていました。こういう楽しみも活動の中に是非あって欲しいものですね。

昼食時は春に菌を植えたものが出てきたシイタケと林内のウラベニホテイシメジで真鍋さんに味噌汁を作っていただきました。いつも旬のものが汁にあっており季節を食べている感じがとてもすばらしいと思っています。ごちそうさまでした。食べ物の話ばかりしていますが、実際はちゃんと作業もこなしました。

午前中は巨木林・景観管理林育成の為の除間伐木の選定、午後は竹林育成のために竹以外の樹木の伐採でした。除間伐に選定された樹木に赤・白のテープをまきつけるのは死刑を宣告する裁判官のようで複雑な心境になりました。

今後も新鮮な体験を楽しみに活動に参加するつもりです。

菌根菌 もちつもたれつ

…木々が生育できるのは、樹木と共生生活を行う外生菌根菌というきのこのおかげである。マツ科、ブナ科、カバノキ科の樹木で北半球の大半の森林を支配するが、これらの樹木は外生菌根菌と栄養のやり取りを行うことで繁栄をきわめている。木々の根は菌糸とつながり、菌糸のネットワークにより森は一つの大きな有機体となる。森はきのこなしでは生きていけない。



サクラシメジの生えている秋のコナラ林

きのこだけが菌の生きている姿ではない。きのこは菌の生活のほんの一部。落ち葉の下では1年を通して菌が生活し、森全体のくらしを支えている。

(文は大作晃一、吹春俊光著 山と溪谷社発行「きのこワンダーランド」より抜粋)
(写真は10月24日豊英島サクラシメジ)